

野蒜復興新聞

新年2014 迅速な復旧・復興を目指して

野蒜地区復興協議会
会長より新春の挨拶



野蒜地区復興協議会
会長 成澤孝一

新年明けましておめでとうございます。皆様方には健やかに新春を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。東日本大震災の発生から三年目を迎えるうとしております。この間皆様方には震災の厳しい状況乗り越え、野蒜地域の復興に御尽力、御協力をいただいていることに心から感謝を申し上げます。野蒜北部丘陵地区整備工事も一月中旬にはベルトコンベアによる切土運搬も始まり、工事も大きく進むものと思われま。また復旧、復興にはまだまだ月日がかかるものと思いますが、協議会とし、これからも皆様方お一人おひとりの提案、提言を大切に、関係機関と相談協議しながら一日でも早い復旧、復興の一助になるよう努力してまいりたいと思っております。今後とも御理解と御協力をいただきますようお願い致します。結びに、皆様の御健勝、御多幸を御祈年申し上げます、新年のあいさついたします。



高台移転部会全体会 防集事業対象

12月8日に高台移転全体会(自身で住宅を建設希望者対象)が野蒜市民センターで開催され、住民や市関係者など約二百五十名を越える方々が参加されました。協議事項は①高台移転部会の検討経過について②移転先団地計画の概要について③今後のスケジュールについて協議し、その後は質疑応答の時間を持りました。

部会では今年25年度に入って9回部会を開催し、造成地へ新しくできるまちづくりのルール(案)を検討してまいりました。それは抽選方法や時期、住宅地のまちづくり目標、その実現のために必要なルール等です。そしてこのたびの全体会において、現在までの検討結果や移転先団地計画の進捗状況などをお示し、さらにご意見などをいただき、今後のスケジュールを定めました。今後は12月13、15、16日の3日間において画地位置決めの説明会を実施したので、1月からは抽選を開始し、3月末までに画地位置決めを決定する計画で進めていきます。

高台移転部会 災害公営住宅

高台移転部会では自身で住宅建築を希望する方（防集事業希望者）と、災害公営住宅を希望する方（災害公営希望者）で分かれて協議しており、12月4日の会議では災害公営住宅を希望する役員さんと事務局とで協議を実施。協議内容としては野蒜地区の災害公営住宅に関する情報発信について、今後の協議体制についてです。

12月中旬に災害公営住宅希望者へ進捗情報である「災害公営住宅通信」を配布し、希望者へは建設途中の災害公営住宅見学会を25年12月中旬に実施。さらに、正式な現場見学会は完成予定の26年3月頃に検討中です。

今後は2月にさらに部会員を増やした形で協議を実施し、3月に災害公営住宅希望者対象の全体会を予定しています。



画地位置決 説明会

画地位置決めに関する説明会が12月13、15、16日に野蒜市民センターで開催されました。26年1月から3月まで実施する画地位置決め抽選の方法を分かりやすく説明するため、模範の抽選会を住民の皆さんに参加していただき、実践しました。

一般世帯の画地決めで一回目と二回目の希望画地申込



復興部会

12月16日に第9回復興部会が開催され、部会員と市の関係者約20名で協議しました。

はじめに部会長から山形県のNPO法人と実行委員会と共同で進めている「お地蔵さんプロジェクト」の進捗状況について報告がありました。完成を目標に、11日の地区長音寺の駐車場の付近へお地蔵さんの建立を協議中ということでした。

また部会では、来年度から今年の反省も含めて活動できるよう、よりまとまった体制に改善してはどうかと提案されました。

行政区に関して、被災した行政区や今後新たに高台へできる行政区について、いろいろな意見が聴かれましたが、今後も各行政区で協議されていくことになりました。



医療福祉部会

このたびは部会員と関係者など計16名で協議しました。協議事項は地域包括ケア等についてで、今後高齢化が加速するなか地域住民が地域住民を支えて行く必要がある、高齢者が高齢者を支えて行く地域社会の仕組みを構築して行く試みです。

地域包括ケアシステムが目指す範囲は概ね30分以内に必要なサービスを提供できるように、この実現のためには医療福祉施設、自治会、老人クラブ、ボランティアなど、横の繋がりと連携をはかりながら、地域の主体性を基に作り上げていく必要性が共有されました。また部会員からは実施中のお茶会や教室など、各団体の活動情報を共有し連携していくことなどが提案されました。

